

3.14 ソーシャルICT 推進研究センター

研究センター長(兼務) 富田二三彦

【センター概要】

近年、情報通信技術分野は第3のパラダイムを迎え、実世界とサイバー空間の融合、ビッグデータの活用等により、様々な社会・経済活動において課題解決や新たな価値を創出することが求められている。このため、NICTでは実空間にワイヤレス機能を有するセンサー、多様かつ膨大なデータ流通に適したネットワーク、分散データセンタ、膨大なデータを蓄積するストレージ、横断的な異分野相関検索・分析を可能とするデータセンタ等を包含する「モバイル・ワイヤレステストベッド(図1)」を整備し同テストベッドを活用した研究開発や実証実験を進めてきた。さらに、公共性を有する「ビッグデータ」を「ソーシャル・ビッグデータ」と位置付け、ソーシャル・ビッグデータの利活用の促進、サイバーフィジカルシステム、M2M、IoTとも呼ばれるシステム・サービスの実現・普及に貢献するため、「ソーシャル・ビッグデータ利活用・基盤技術の研究開発」を平成26年1月に公募し、平成26年度から22件の委託研究が実施されている。

このような背景から、上述の研究開発等を関連する研究所・センターとの連携により一層推進するとともに、社会や地域の課題解決に貢献する実証的な研究開発、新たな価値や市場創出に貢献する基盤技術の確立等を図るため、NICTは平成26年4月1日に「ソーシャルICT推進研究センター」を設置した。当センターは、関連する技術の研究開発・実証実験等を通じて、グローバルな視点からオープンとクローズを適切に使い分けるICTに関するイノベーションプラットフォームを形成し、公共的な社会生活の視点からよりスマートなコミュニケーション社会の実現を目指す。

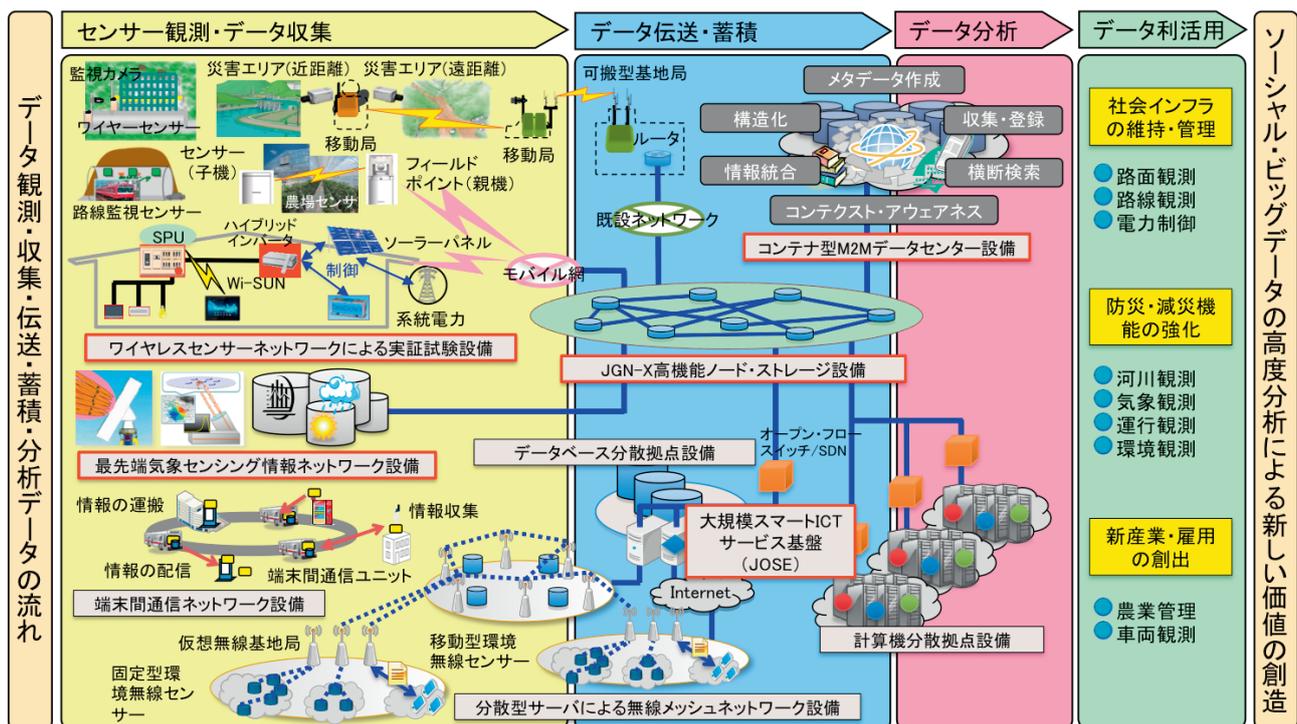


図1 モバイル・ワイヤレステストベッドの全体像

当センターには、次に示す研究室及び連携センターを設置し、上述の「モバイル・ワイヤレステストベッド」等を活用した研究開発を産学官連携のもと実施している。

1. ソーシャルICT 研究室

関連する研究所・センターの他、企業大学等と連携し、主に以下の研究開発を行う。

「PANDA等の広帯域リモートセンシング技術を活用した地域災害対策支援の研究開発」

「Wi-SUN等の狭帯域リモートセンシング技術を活用した地域見守り・地域活性化の研究開発」

その他、「モバイル・ワイヤレステストベッド」を活用した実証実験、研究開発、ソーシャル・ビッグデータ利活用・基盤技術の研究開発等を行う。

2. ソーシャルビッグデータ ICT 連携センター

東京大学生産技術研究所 (IIS)、国立情報学研究所 (NII) と連携し、主に以下の研究開発を行う。

「超高速・頑健自然言語処理技術の研究開発」

「高度データマイニング技術」

「大規模情報統合可視化技術の研究開発」

【主な記事】

総務省「G 空間プラットフォームの開発・実証」事業の受託

「G 空間プラットフォーム」とは、特性・分野別に集約された地理空間情報について、利用者が統合的にワンストップで検索・閲覧し、情報を入力・利用することを可能にするもので、平成 26 年 6 月に閣議決定された「日本再興戦略」において平成 28 年度から運用を開始するとされている。G 空間プラットフォームのイメージを図 2 に示す。

当センターでは東京大学、日立製作所とともに平成 26 年度に総務省が公募した同事業を受託し、主に以下の内容について開発を行った。

- G 空間プラットフォームにおいて取り扱うべき G 空間情報の検討・整理等
- G 空間プラットフォームの機能開発及びシステム構築
- G 空間プラットフォームの利活用実証
- G 空間プラットフォームの利活用促進のための普及活動

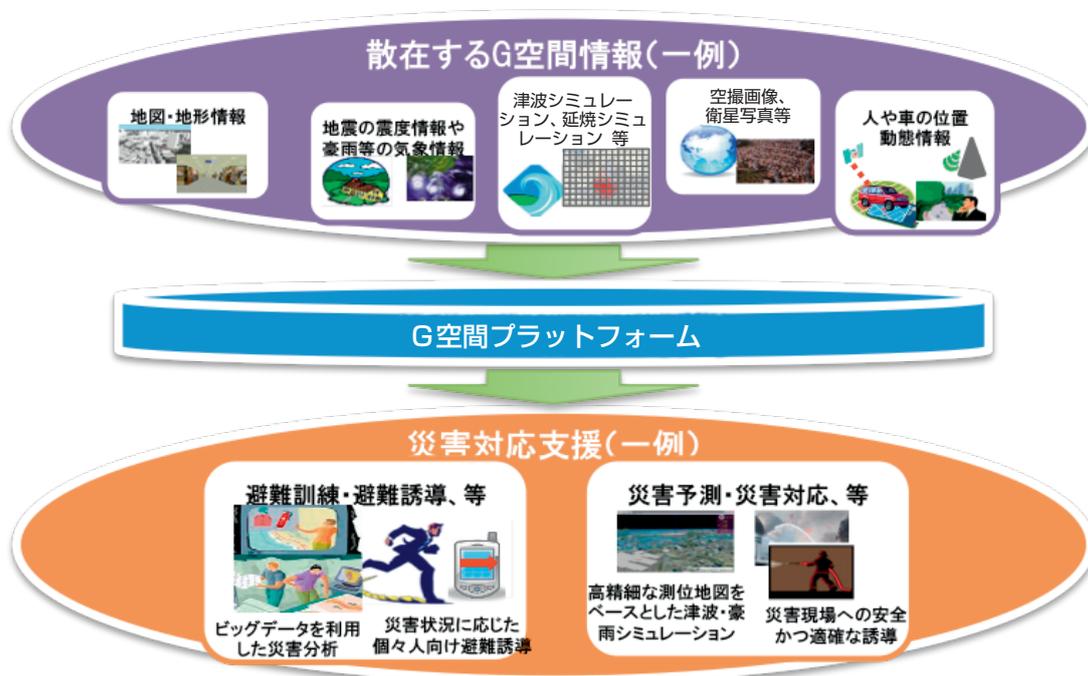


図 2 G 空間プラットフォームのイメージ